

REPORT 2022

roasso
kumamoto

SEASON RESULTS

J2 4位

roasso-kumamoto
report 2022

全試合成績グラフ



▶ 2022 明治安田生命J2リーグ順位表

順位	クラブ名	勝点	試合数	勝	分	敗	得点	失点	得失点
1	アルビレックス新潟	84	42	25	9	8	73	35	38
2	横浜FC	80	42	23	11	8	66	49	17
3	ファジアーノ岡山	72	42	20	12	10	61	42	19
4	ロアッソ熊本	67	42	18	13	11	58	48	10
5	大分トリニータ	66	42	17	15	10	62	52	10
6	モンテディオ山形	64	42	17	13	12	62	40	22
7	ベガルタ仙台	63	42	18	9	15	67	59	8
8	徳島ヴォルティス	62	42	13	23	6	48	35	13
9	東京ヴェルディ	61	42	16	13	13	62	55	7
10	ジェフユナイテッド千葉	61	42	17	10	15	44	42	2
11	V・ファーレン長崎	56	42	15	11	16	50	54	-4
12	ブラウブリッツ秋田	56	42	15	11	16	39	46	-7
13	水戸ホーリーホック	54	42	14	12	16	47	46	1
14	ツエーゲン金沢	52	42	13	13	16	56	69	-13
15	FC町田ゼルビア	51	42	14	9	19	51	50	1
16	レノファ山口FC	50	42	13	11	18	51	54	-3
17	栃木SC	49	42	11	16	15	32	40	-8
18	ヴァンフォーレ甲府	48	42	11	15	16	47	54	-7
19	大宮アルディージャ	43	42	10	13	19	48	64	-16
20	ザスパクサツ群馬	42	42	11	9	22	36	57	-21
21	FC琉球	37	42	8	13	21	41	65	-24
22	いわてグルージャ盛岡	34	42	9	7	26	35	80	-45

J1昇格
プレーオフ進出

▶ 2022 Jリーグアウォーズ 優秀監督賞 (J2) 受賞

クラブ史上初選出

大木 武監督



▶ 2022 Jリーグアウォーズ ベストイレブン (J2)

クラブ史上初選出

MF 河原 創

FW 高橋 利樹



J2リーグ戦
過去最高順位
4位でフィニッシュ!!

	1節	2節	3節	4節	5節	6節	7節	8節	9節	10節	11節	12節	13節	14節	15節	16節	17節	18節	19節	20節	21節	22節	23節	24節	25節	26節	27節	28節	29節	30節	31節	32節	33節	34節	35節	36節	37節	38節	39節	40節	41節	42節
Home/Away	A	H	A	A	H	A	A	H	A	A	H	H	A	A	H	A	H	A	H	A	A	H	H	A	H	A	A	H	H	A	H	A	A	H	H	A	H	A	H	A	H	
対戦相手	レノファ山口FC	モンテディオ山形	大宮アルディージャ	徳島ヴォルティス	V・ファーレン長崎	水戸ホーリーホック	ツエーゲン金沢	アルビレックス新潟	東京ヴェルディ	栃木SC	ファジアーノ岡山	ベガルタ仙台	いわてグルージャ盛岡	横浜FC	FC琉球	大分トリニータ	ジェフユナイテッド千葉	ザスパクサツ群馬	ヴァンフォーレ甲府	ブラウブリッツ秋田	FC町田ゼルビア	水戸ホーリーホック	大分トリニータ	ファジアーノ岡山	徳島ヴォルティス	モンテディオ山形	レノファ山口FC	ツエーゲン金沢	FC琉球	栃木SC	ヴァンフォーレ甲府	アルビレックス新潟	東京ヴェルディ	大宮アルディージャ	V・ファーレン長崎	FC町田ゼルビア	いわてグルージャ盛岡	ジェフユナイテッド千葉	ブラウブリッツ秋田	ザスパクサツ群馬	ベガルタ仙台	横浜FC
結果	△1-1	●0-3	○2-1	△2-2	○2-0	●0-2	△2-2	●1-2	○3-2	△1-1	△1-1	●0-2	○2-1	○1-0	●0-2	○2-1	△1-1	○3-2	△1-1	△2-2	△1-1	△0-0	●1-2	○2-0	△1-1	○1-0	○1-0	○3-0	●0-2	○2-0	△2-2	●0-1	○1-0	○1-0	○3-1	△0-0	○1-0	○1-0	●1-2	○5-1	●1-2	●3-4
得点者	高橋		菅田栗飯原	伊東高橋	竹本坂本		高橋伊東	坂本	阿部杉山東山	竹本	坂本		菅田伊東	伊東		田辺杉山	高橋	高橋へんりー高橋	竹本	オウンG河原	土信田		高橋	伊東へんりー	高橋	菅田	高橋	高橋杉山杉山		杉山杉山	高橋坂本		上村	高橋	竹本平川坂本		杉山	黒木	栗飯原	高橋坂本三島平川田辺	菅田	杉山杉山高橋
順位	6	20	12	12	7	10	13	16	10	12	14	16	15	12	14	8	9	6	5	8	9	9	11	9	10	7	6	6	6	6	5	6	5	5	4	5	4	4	4	4	4	4
累計勝点	1	1	4	5	8	8	9	9	12	13	14	14	17	20	20	23	24	27	28	29	30	31	31	34	35	38	41	44	44	47	48	48	51	54	57	58	61	64	64	67	67	67
来場者数		3,747			4,138			2,885			2,302	1,671			3,140	2,672	2,190					2,724	5,223		2,005		2,627	2,575		3,611			2,980	2,954		2,802	2,163	5,428	5,472		21,508	

2022 J1 参入プレーオフ

J1 参入プレーオフとは 各1試合のトーナメント方式にて、明治安田生命J2リーグ年間順位3位～6位のクラブで1回戦、2回戦を行い(3位vs6位、4位vs5位)、その勝者と明治安田生命J1リーグ年間順位16位のクラブが決定戦を行うもの。

1回戦 10月30日(日) 来場者数: 13,818人

ロアッソ熊本 2-2 大分トリニータ
(J2リーグ4位) (J2リーグ5位)

1回戦/90分間(前後半各45分)の試合を行い、勝敗が決しない場合は、年間順位の優位性を確保するため、J2リーグ戦年間順位が上位のクラブを勝者とされます。



2回戦 11月6日(日) 来場者数: 11,429人

ロアッソ熊本 2-2 モンテディオ山形
(J2リーグ4位) (J2リーグ6位)

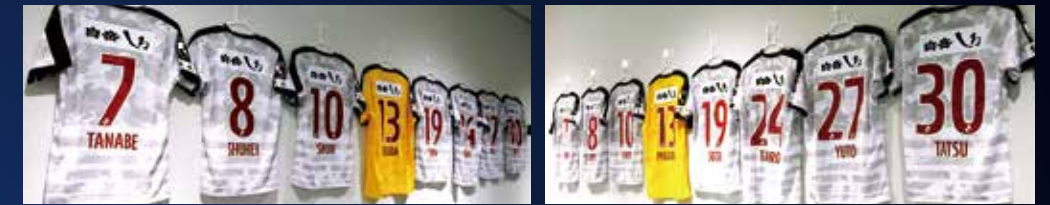
2回戦/90分間(前後半各45分)の試合を行い、勝敗が決しない場合は、年間順位の優位性を確保するため、J2リーグ戦年間順位が上位のクラブを勝者とされます。



決定戦 11月13日(日)

ロアッソ熊本 1-1 京都サンガF.C.
(J2リーグ4位) (J1リーグ16位)

決定戦/90分間(前後半各45分)の試合を行い、勝敗が決しない場合は、明治安田生命J1リーグ年間順位16位のクラブが勝者とされます。決定戦の勝者は、2023シーズンにJ1リーグに残留または昇格となります。



J1への壁は高かった…



大いに飛躍した2022シーズン 筑城和人強化担当に聞く

J3からJ2昇格1年目にクラブ史上初の4位で、
期待以上の成績でしたが

筑城)大木監督に指揮を執っていただいて3年目ということ、また、前年の主力メンバーがほぼチームに残り、積み上げができたことが大きなプラス面でした。そこへ新たに2022年から加わった選手たちが底上げ、エッセンスを加えてくれたことで、2022シーズンの躍進につながったと感じています。監督、コーチ、メディカルスタッフ、マネージャー、選手が常にポジティブな空気感を保ち、切磋琢磨してきた結果だと思います。戦績に目を移しても、最終戦まで連敗をしなかったことはとても大きかったですし、後半戦に勝ち点を伸ばすことができました。チームの成長、ひいては選手の成長がその要因であると思います。選手たちが試合を重ねるたびに自信を得ていく姿、内容と結果を追求していく姿がとても印象に残っています。

J1昇格まであと一步のところでしたが、
筑城さんはどのように受け止めていますか？

筑城)もちろん、すごく悔しい気持ちでいっぱいですが、どのチームと対戦しても良い内容の試合ができるので、とにかく次の試合が楽しみでしょうがなかったです。今年のチームはその自信を皆が持っていました。最後の入れ替え戦は当然残念ではありましたが、「もうこのチームの試合を見ることができないのか」という寂しい気持ちと、「本当によくここまで来てくれたなあ。ありがとう！」というのが、正直な気持ちですかね。私がこのチームの一番のファンでした。(笑)

昨シーズン以上に
個の成長やチームが進化したと思いますが

筑城)2021シーズンはJ3リーグを戦っていたので、比較することはできません。ただ個の成長は間違いなくありますし、チームとして進化し続けたからこそ、後半戦の勝ち点奪取につながったと感じています。一番大事なのは日常ですね。日々の練習を見てもらえれば分かると思います。J3リーグから上がってきたばかりのチームが、なぜJ1参入プレーオフ決定戦まで辿り着いたのか。1日、1日の練習に対する準備、姿勢、そして気持ち。とにかく誰一人として手を抜くことがない。さらにいえば、誰一人として手を抜くことができない空気感を、監督はじめコーチングスタッフ、選手たちが作り出しています。プロだから当たり前だろと思われるかもしれませんが、これは中々できることではないのです。当たりのことを当たり前に行うことは、どんな仕事でも大事です。ただ、それが一番疎かになりがちです。でも、今年のチームは当たりに毎日積み上げてきました。そんなチームが成長しないわけがありません。

大木監督の「指導方法」や「凄さ」について教えてください

筑城)本当に細かい部分まで見えていますね。サッカーについてはもちろんですが、選手の顔色、表情、誰と誰が話しているなど、一人一人毎日チェックしています。そして、サッカーに対して、勝負に対しての欲というか、いつもパワー全開で漲っています。監督がその姿勢で毎日グラウンドに立っていますから、皆引っぱられますよね。そして、選手たちを先導していく言葉を沢山持っています。選手はもちろん、ボ

クもその気にさせられることが多いのです。とにかく、「あの人についていけば間違いない！」と思わせてくれる監督だと感じています。そして、一番凄みを感じたのは、監督が不在の中で行われたホーム長崎戦でした。「チームの長」が不在だと、緩んだり、不安になったり、何をすれば良いのか分からなくなったりすることがあります。しかし、試合前の選手たちからの不安は一切感じられず、「もう試合でやることは分かっている、いつも通りにやるだけ」といった感じでした。結果2-0で勝つわけですが、それだけ日々の練習や試合で選手に落とし込んでいくということ、信頼関係が構築されているということだと思います。監督不在の中でも、選手が迷うことなく、いつもやっていることを全力でやるチームを作っていることに対して、その場にいないはずの大木監督の存在感をものすごく感じました。

ここ数年、若い選手を中心とした編成が多く、
育成しながら成果を出していますね

筑城)そうですね、GMの思い描いた通りに進んでいるんじゃないですかね。(笑) 若い選手たちが監督やコーチングスタッフのもと、日々成長し、チーム力を上げていくという狙いがありますし、何より選手自身が向上心を持って取り組んでいる成果だと思います。ただ、ここで一つだけ言っておきたいのが、若い選手たちだけではないということです。俗にベテランと言われる30歳を超えた選手たちがこのチームを支えています。練習から一切手を抜くことなく、もっと上手になりたい、強くなりたいというものがヒシヒシと感じられますし、彼らがこれだけやっているのだから、若い選手が手を抜くことなんてできません。若い選手にとってはとても良いお手本であると感じています。

ここ数年大卒新人選手を中心に獲得していますね

筑城)以前から新卒選手は獲得していましたし、実際に主力として活躍し、J1リーグへ移籍していった選手もいます。ただ、ここまで多くの大卒新人選手を編成に組み込んではいませんでした。J3リーグに降格し、クラブ規模も縮小せざるを得ない状況での織田GMのチーム強化に対する方針、戦略ですね。今では、他クラブでロアッソ熊本をモデルケースにするようなチームが増えてきています。どうやってチーム強化しているのかと、他クラブの方からよく連絡がきます。(笑)

筑城さんがスカウトした大卒選手の活躍が目覚ましく、
秘訣などがあれば教えてください

筑城)秘訣なんてありません。実際に自分の目で見て、このチームに合う選手、野心を持った選手を見つけて誘うだけです。ただ、現時点で高いレベルの選手は上位カテゴリーや資金力のあるクラブからオファーを受けます。そこで競って獲得することは非常に難しいですし、実際に今年も2人の選手にふられました。(笑) 私の中では、それぞれのポジションで獲得に向けた基準があり、ロアッソでプレーさせれば成長する、もっと良い選手になると可能性を感じる選手にアタックしています。スカウトに於いて、別にたいしたことはやっていません。若手を成長させてくれたのは、監督をはじめ、コーチングスタッフですが、彼らが活躍しようと日々練習に取り組んできた選手自身の力、努力の賜物なのです。

ロアッソ熊本のようなローカルクラブで生き残るには
何が求められますか？

筑城)私が答えるのは大変恐縮ですが、本来であればクラブ力を上げて、高レベルで安定した力を発揮できるチームを作ることが一番です。やはり、クラブ力(予算)と成績は概ね比例していますから。ただ現状、一足飛びにはいきません。ならば、大切なのはどんな色を持ったチームにするかということではないでしょうか。「ロアッソ熊本は、こういうチームだという色を持つ」ことだと思います。他クラブと同じようなことをして、そのクラブに魅力を感じますか？ロアッソはロアッソのカラーをGMが導き出し、そのカラーに沿ったチーム作りをしています。それをパートナー企業様、ファン・サポーターの皆様、地域の皆様にもご理解いただき、皆で一緒に高みを目指していけるチームになれたらいいと思います。

主力選手が抜けた2023シーズンは、
厳しい戦いが予想されそうですが

筑城)2022シーズンも大方の予想は厳しい戦いになると言われていました。(笑) しかし、その予想を裏切って(?)結果はJ2リーグで4位でした。そして、J1クラブへ多数の選手が移籍していきました。2022シーズンが始まる前に誰がこの結果を予想していましたでしょうか？因みに、私はJ2でも十分いい戦いができると思っていましたよ。(笑) 今シーズンも始まってみなければ分かりませんが、まだ始まってもないのに、ネガティブに考える要素なんて一つもないです。私は楽しみで仕方ありません。2023年のチームがどう変化していくのか、どう成長していくのか。一日一日を大事にし、チームの成長が上昇カーブを描けるようにサポートしていきたいと思います。

2023シーズンは多くのお客様が来場し、
最高の雰囲気選手を後押しして欲しいですね

筑城)リーグ終盤、J1参入プレーオフ戦では1万人を超える方々がスタジアムにご来場いただき、最高の雰囲気、とても大きな力をいただきました。本当に感謝の念に堪えません!2023シーズンも1人でも多くの方にスタジアムと一緒に戦っていただきたいです。是非応援の程、よろしく願いいたします!

筑城和人(Kazuto Tsuyuki)
強化部 強化担当

プロフィール

元Jリーガーで、現役時代のポジションはディフェンダー(サイドバック)。清水市立商業高等学校(現清水桜が丘)一駒澤大学卒業後、2007年に名古屋グランパスエイト(名古屋グランパス)に入団、2009年には徳島ヴォルティスに期限付き移籍。2010年ロアッソ熊本に完全移籍し、サイドバックとしてレギュラーに定着し活躍する。2013年に引退を表明し、ロアッソ熊本強化部、強化担当に就任。現在、スカウト活動で辣腕を振るっている。



ロアッソ熊本財務報告 ※2022年12月末日

▶ 2022 年度財務報告及び 2023 年度予算

2022年度着地見込は、営業収益 915,452千円(前年度実績比 387,462千円増)、営業費用 840,551千円(前年実績比 275,707千円増)を見込んでおり、63,079千円(前年実績比 100,097千円増)の大幅な黒字回復となる見込みです。増収増益となった要因は、J2復帰に加えてJ1参入プレーオフ、決定戦まで進出したこともありスポンサー収入及び入場料収入が増加したことであると捉えています。特に、最終節の横浜FC戦においては、同クラブ所属選手の事実上の現役引退試合と重なったこともあり2.1万人の入場者数で、平均入場者数等の値も一気に引き上げることができました。2023年度は営業収益 1,018,882千円(前年予算比 234,462千円増)、営業費用 884,462千円(前年予算比 126,494千円増)とし、106,456千円の2期連続黒字を目指します。

単位:千円

科 目	2021年度 実績	2022年度 着地見込※1	差 額	2022年度 予算	2023年度 予算案※2	差 額
営業収益	527,990	915,452	387,462	784,420	1,018,882	234,462
スポンサー収入	318,758	400,420	81,662	400,000	500,000	100,000
入場料収入	52,391	157,206	104,815	80,000	113,400	33,400
Jリーグ配分金	29,711	164,337	134,626	158,000	100,532	△ 57,468
賞金	5,500		△ 5,500			0
アカデミー関連収入			0			0
物販収入	44,040	63,645	19,605	51,520	73,200	21,680
その他収入	77,590	129,844	52,254	94,900	231,750	136,850
営業費用	564,844	840,551	275,707	757,968	884,462	126,494
チーム人件費	247,001	359,405	112,404	351,553	376,800	25,247
試合関連経費	28,977	79,636	50,659	58,000	90,736	32,736
トップチーム運営経費	58,818	95,685	36,867	87,900	100,809	12,909
アカデミー運営経費			0			0
物販関連費	39,636	116,664	77,028	80,365	124,465	44,100
販売費および一般管理費	183,978	182,224	△ 1,754	172,900	183,832	10,932
減価償却費	6,434	6,937	503	7,250	7,820	570
営業損益	△ 36,854	74,901	111,755	26,452	134,420	107,968
営業外収益	4,033	8,101	4,068	3,000	3,000	0
営業外費用	1,597	1,404	△ 193	1,600	1,600	0
経常損益	△ 34,418	81,598	116,016	27,852	135,820	107,968
特別利益	0	0	0	0	0	0
特別損失	0	0	0	0	0	0
税引前当期純利益	△ 34,418	81,598	116,016	27,852	135,820	107,968
法人税など	2,600	18,519	15,919	7,770	29,364	21,594
当期純損益	△ 37,018	63,079	100,097	20,082	106,456	86,374

※1.2022年度着地見込及び2023年度予算については2022年12月21日に作成。 ※2.千円未満は四捨五入、端数調整なし

▶ 2023年度予算方針

スポンサー収入:500,000千円(前年予算比 100,000千円増)

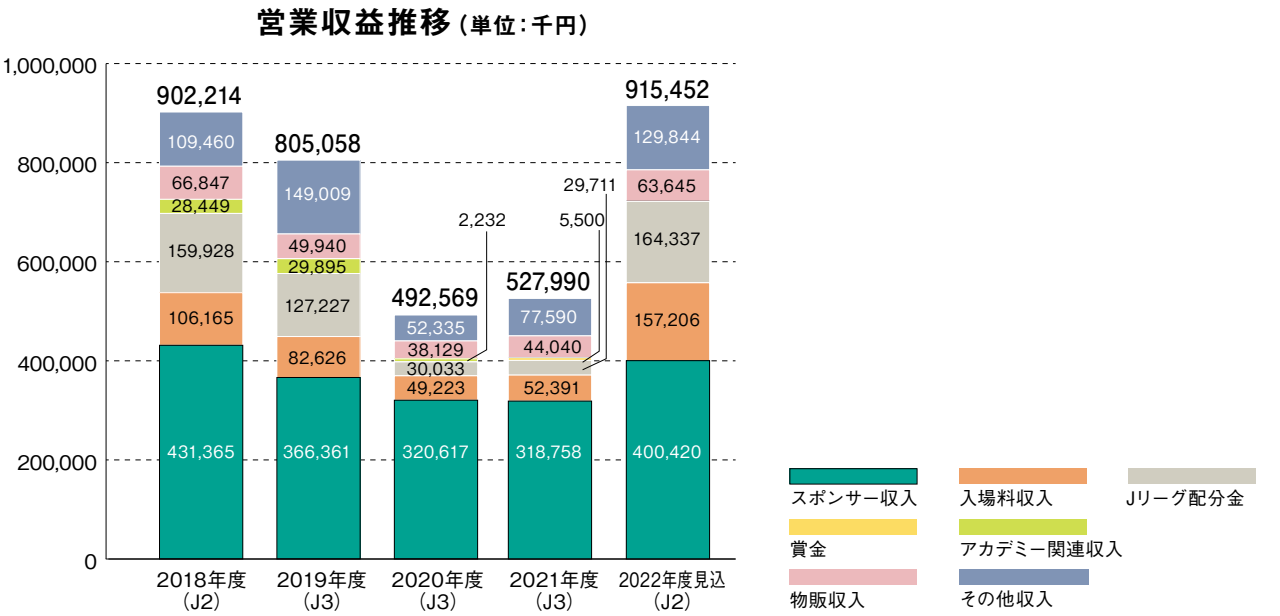
入場料収入:113,400千円(前年予算比 33,400千円増)

物販収入:73,200千円(前年予算比 21,680千円増)

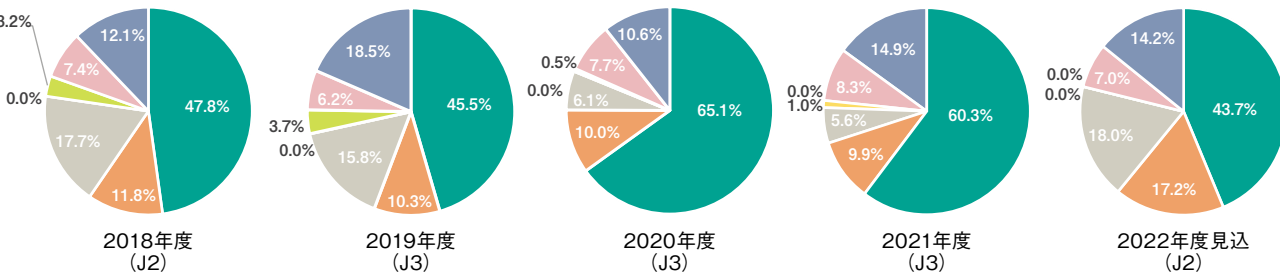
2023年度予算は、J1昇格を目指す雰囲気を持し、クラブの強化を図る機会と捉え、スポンサー収入に関しては2022年度予算比で1億円高い予算を設定。また、入場料収入並びに物販収入に関しても、平均入場者数目標を4,500人(前年比461人増)に設定し、好調であった2022年度を上回る業績を目指します。

主力選手が移籍したことで、戦力低下が懸念されるも、新戦力を補強し更なる強化を図るために、チーム人件費を376,800千円(前年予算比 25,247千円増)としています。上記に伴う移籍金収入も見込んでおり、2023年度予算は106,456千円の2期連続黒字を目指します。

▶ 直近 5 年の営業収益推移



▶ 直近 5 年の営業収益比率比較



上記は直近5年の営業収益推移ならびに営業収益比率を示したグラフとなっています。2022年度は前年実績より約3億8,700万円の増収見込みとなっており、2018年度J2シーズン実績を上回る業績見込みです。リーグ戦を上位成績で終え、J1参入プレーオフ・決定戦まで進んだこともあり、スタジアムへ足を運ぶサポーターが増え、入場料収入比率が過去4年平均10.3%であるのに対して2022年度は17.2%と上昇したことが増収の要因となっています。J2に復帰したこともありJリーグ配分金比率も18%となり、物販収入比率が平均値に留まったものの、今シーズンの人気上昇を維持し更なる売上拡大を目指して、J1仕様のクラブを目指します。

▶ 2021 Jクラブ営業収益（過去3年間）の推移と比較

【凡例】 : J1在籍 : J2在籍 : J3在籍
 : J1昇格 : J1からJ2降格及びJ3からJ2昇格 : J3降格

◆2021年J1在籍クラブ

(百万円)

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
1	川崎F	6,969	5,445	6,982 +1,537
2	浦和	8,218	5,771	6,891 +1,120
3	鹿島	6,768	4,797	6,603 +1,806
4	神戸	11,440	4,714	6,389 +1,675
5	名古屋	6,912	5,236	6,173 +937
6	横浜FM	5,884	5,864	5,228 ▲636
7	G大阪	5,513	4,491	5,179 +688
8	FC東京	5,635	4,588	4,772 +184
9	清水	4,291	4,545	4,366 ▲179
10	柏	3,140	4,613	3,906 ▲707
11	C大阪	3,786	2,915	3,738 +823
12	広島	3,737	3,209	3,460 +251
13	札幌	3,599	3,096	3,392 +296
14	徳島	1,763	1,672	2,745 +1,073
15	横浜FC	1,841	2,165	2,560 +395
16	鳥栖	2,561	1,649	2,267 +618
17	湘南	2,701	2,188	2,178 ▲10
18	福岡	1,577	1,538	2,132 +594
19	仙台	2,711	1,997	2,121 +124
20	大分	1,866	1,756	2,096 +340

▶ J1所属クラブ

	2019年度	2020年度	2021年度	直近3年平均
平均	4,546	3,612	4,159	4,106

◆2021年J2在籍クラブ

(百万円)

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
1	大宮	3,454	3,034	3,115 +81
2	磐田	3,813	2,867	3,108 +241
3	千葉	2,838	2,503	2,371 ▲132
4	京都	2,090	2,101	2,209 +108
5	新潟	2,247	2,194	2,208 +14
6	長崎	2,564	1,858	1,980 +122
7	松本	2,711	1,928	1,903 ▲25
8	山形	1,845	1,674	1,847 +173
9	東京V	1,938	1,493	1,755 +262
10	岡山	1,567	1,362	1,571 +209
11	町田	1,032	1,253	1,492 +239
12	甲府	1,455	1,229	1,292 +63
13	北九州	804	986	1,094 +108
14	山口	1,289	1,043	1,010 ▲33
15	栃木	975	855	978 +123
16	愛媛	777	805	845 +40
17	水戸	752	762	824 +62
18	相模原	348	379	776 +397
19	秋田	461	461	775 +314
20	金沢	760	665	761 +96
21	琉球	632	560	641 +81
22	群馬	465	622	637 +15

▶ J2所属クラブ

	2019年度	2020年度	2021年度	直近3年平均
平均	1,583	1,392	1,509	1,495

◆2021年J3在籍クラブ

(百万円)

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
1	今治	-	834	917 +83
2	岐阜	1,079	853	750 ▲103
3	長野	675	564	708 +144
4	鹿児島	790	698	692 ▲6
5	富山	522	548	627 +79
6	岩手	263	527	588 +61
7	熊本	850	517	550 +33
8	讃岐	561	396	408 +12
9	鳥取	455	283	381 +98
10	福島	325	356	367 +11
11	沼津	401	369	361 ▲8
12	藤枝	324	293	358 +65
13	八戸	302	261	337 +76
14	宮崎	-	-	291 -
15	YS横浜	204	73	252 +179

▶ J3所属クラブ

	2019年度	2020年度	2021年度	直近3年平均
平均	519	469	506	498

▶ Jリーグ所属クラブ全体

	55クラブ	56クラブ	57クラブ	直近3年平均
総合計	132,480	109,455	123,957	121,964

	2019年度	2020年度	2021年度	直近3年平均
総平均	2,409	1,955	2,175	2,179

※Jリーグ 2021年度クラブ経営開示情報資料より引用

▶ ロアッソ熊本の営業収益			2022年度 (着地見込)	前年比
			915	+365

※2022年12月22日現在データ

上記2種類のデータは、Jリーグが公表しているJリーグ所属全57クラブの『2021年度までの過去3年間の営業収益及びチーム人件費』を示したものです。

当クラブの2022年度着地見込 営業収益 915百万円、チーム人件費 359百万円という数値は、前シーズンJ3リーグ所属時の実績からは大幅に増加したものの、他クラブと比較すると、J2リーグではまだまだ下位に相当します。

データからは営業収益とチーム人件費が相関関係にあることが見て取れますが、その数値が高いクラブほどリーグ戦成績では上位に位置し、低いクラブは降格圏内での厳しい戦いを強いられている現実もデータから読み取ることができます。

もちろん金額の多寡が全てではないことは、当クラブが2022シーズン上記のような条件下において、J2リーグ戦4位で着地しプレー

▶ 2021 Jクラブ チーム人件費（過去3年間）の推移と比較

【凡例】 : J1在籍 : J2在籍 : J3在籍
 : J1昇格 : J1からJ2降格及びJ3からJ2昇格 : J3降格

◆2021年J1在籍クラブ

(百万円)

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
1	神戸	6,923	6,396	5,052▲1,344
2	川崎F	2,958	3,036	3,630+594
3	柏	2,940	2,879	3,105+226
4	浦和	3,228	3,119	3,089▲30
5	名古屋	3,973	3,525	3,089▲436
6	鹿島	2,936	2,550	2,868+318
7	G大阪	2,434	2,721	2,735+14
8	横浜FM	2,736	3,034	2,712▲322
9	FC東京	2,684	2,962	2,541▲421
10	C大阪	2,406	2,020	2,449+429
11	清水	1,729	1,937	2,127+190
12	広島	1,931	2,040	1,876▲164
13	徳島	892	916	1,684+768
14	札幌	1,698	1,614	1,660+46
15	福岡	784	968	1,643+675
16	横浜FC	916	1,010	1,513+503
17	鳥栖	2,528	1,389	1,334▲55
18	湘南	1,263	1,121	1,293+172
19	大分	860	1,154	1,251+97
20	仙台	1,296	1,246	1,156▲90

▶ J1所属クラブ

	2019年度	2020年度	2021年度	直近3年平均
平均	2,356	2,282	2,340	2,326

◆2021年J2在籍クラブ

(百万円)

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
1	磐田	1,995	1,405	1,583+178
2	長崎	1,029	1,382	1,384+2
3	大宮	1,547	1,300	1,354+54
4	京都	895	929	1,130+201
5	千葉	1,153	1,444	1,053▲391
6	松本	1,430	1,090	823▲267
7	新潟	722	821	691▲130
8	東京V	713	660	678+18
9	町田	402	497	655+158
10	岡山	634	635	612▲23
11	山形	549	605	588▲17
12	甲府	707	609	483▲126
13	山口	527	505	483▲22
14	北九州	250	330	449+119
15	愛媛	406	410	403▲7
16	琉球	252	315	369+54
17	水戸	321	335	351+16
18	金沢	311	312	347+35
19	栃木	365	314	323+9
20	群馬	184	242	298+56
21	秋田	161	184	265+81
22	相模原	121	151	265+114

▶ J2所属クラブ

	2019年度	2020年度	2021年度	直近3年平均
平均	667	658	663	663

◆2021年J3在籍クラブ

(百万円)

	2019年度	2020年度	2021年度	前年比
1	岐阜	461	333	373+40
2	今治	-	233	308+75
3	岩手	114	277	286+9
4	長野	294	248	278+30
5	熊本	310	241	242+1
6	富山	200	180	239+59
7	鹿児島	296	272	233▲39
8	讃岐	263	189	182▲7
9	藤枝	164	178	176▲2
10	福島	124	122	140+18
11	沼津	116	128	130+2
12	鳥取	114	114	112▲2
13	宮崎	-	-	106-
14	八戸	81	70	72+2
15	YS横浜	32	49	54+5

▶ J3所属クラブ

	2019年度	2020年度	2021年度	直近3年平均
平均	198	188	195	194

▶ Jリーグ所属クラブ全体

55クラブ 56クラブ 57クラブ

	2019年度	2020年度	2021年度	直近3年平均
総合計	64,358	62,746	64,325	63,810

	2019年度	2020年度	2021年度	直近3年平均
総平均	1,170	1,120	1,129	1,140

※Jリーグ 2021年度クラブ経営開示情報資料より引用

▶ ロアッソ熊本のチーム人件費			2022年度 (着地見込)	前年比
			359	+117

※2022年12月22日現在データ

オフを勝ち抜き、J1リーグ昇格にあとわずかで手が届くところまで到達したことで証明することができました。

しかし今後継続的に安定して上位で闘いJ1リーグ昇格を勝ち取るためには、クラブ収益を向上させることで安定した基盤をつくる必要があることは言うまでもありません。

Jリーグクラブの収益は、企業からのスポンサー収入、個人からの入場料収入など多岐に及びますが、中でもスポンサー収入は全クラブの中でも営業収益のうちの平均約47%を占める大変比重の高い核となる収入項目です。

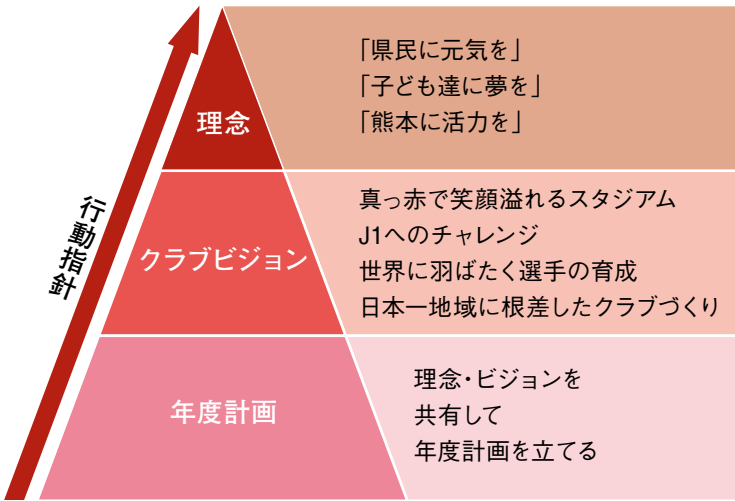
より県民の皆様に愛され、パートナー企業にとってより支援する意義の高いクラブへと成長するため、今後も日本一地域に根差したクラブづくりに尽力してまいります。

私たちが目指すもの

▶ **クラブ理念** 「県民に元気を」「子ども達に夢を」「熊本に活力を」
…お届けしたい。

私たちのすべての活動はこの理念に基づき、地域に根ざしたクラブとして、地域に生活する人々と共に発展し、子ども達に夢と希望を、地域に誇りと感動を覚えてもらうことに努め、クラブを軸としたコミュニティを築き、世界に開かれた豊かなスポーツ文化の創造に貢献します。

- クラブビジョン
- ① 真っ赤で笑顔溢れるスタジアム
 - ② J1へのチャレンジ
 - ③ 世界に羽ばたく選手の育成
 - ④ 日本一地域に根差したクラブづくり



▶ クラブ理念とクラブビジョンの解釈

県民に元気を	子ども達に夢を	熊本に活力を
「J1へのチャレンジ」	「J1へのチャレンジ」 「日本一地域に根差したクラブづくり」 「世界に羽ばたく選手育成」	「真っ赤で笑顔溢れるスタジアム」 「日本一地域に根差したクラブづくり」
▶ J1やACLで戦える常勝チームをつくる。 ▶ チームの勝利がサポーターに元気を届け、日常生活の活力に。 ▶ サッカーだけではなく、性別・年代・障がいなどの多様性を考慮したスポーツによる地域貢献(健康促進・フレイル予防・障がい者スポーツなど)	▶ 「生まれ育った」熊本への愛着・地域愛・シビックプライドの醸成 ▶ 幼いころより地域と共に活動するロアッソ熊本の活動を体験することにより、郷土へ愛着を持ち、熊本でも夢を見せることにより、都市部への人口流出を防ぐ。 ▶ 世界で通用するサッカー選手の育成	▶ 交流人口増加、ロアッソの発信力を活用した熊本の魅力発信 ▶ 健全な青少年の育成および人材育成により将来の熊本を支える人材の育成 ▶ リーグ戦やクラブを活用した熊本の観光、地場の物産に貢献した経済効果



▶ クラブプロフィール

絆180万馬力

クラブスピリッツ 絆180万馬力

ロアッソ熊本では、これまでクラブスローガンとしても活用してきました「絆180万馬力」をクラブスピリッツとしました。ロアッソ熊本はこれまでも、そしてこれからも、ファン・サポーターの皆様、株主・パートナー企業の皆様、ロアッソ熊本に関わるすべての皆様と「絆」を結び、共に歩んでいきます。

roasso
kumamoto

チーム名 ロアッソ熊本

熊本を象徴する「阿蘇山」や「火の国熊本」から、熊本の燃える情熱を表す赤のイタリア語「ロッソ」と、「エース」「唯一の」を意味するイタリア語「アッソ」を組み合わせた造語で、Jリーグでもエースとなりうるナンバー1のチームを目指す決意をチーム名に込めています。

エンブレム

「馬」は選手・若者の象徴。「盾」はサポーター：盾の形は熊本県のマークから発想しています。「馬」は熊本の伝統や自然を象徴する動物です。暴れ馬と、それを盛り上げる祭りの参加者を、そのままサッカー選手とサポーターに重ね合わせました。また、大阿蘇の草原を走る馬は、フィールドを駆ける選手に見立てています。

チームマスコット ロアッソくん

年齢：小学校高学年 背番号：123
出身地：ヒノクニ 将来の夢：ワールドカップ出場

2022シーズン スローガン「闘え! 2022」

2022年、ロアッソ熊本は一つ上のステージJ2での闘いとなります。ロアッソファミリー全員で更なる高みを目指して熱く闘うという意志を込めています。

スポンサーシップからパートナーシップへ

これまで一方的なご支援依頼でしかなかったスポンサーシップについて、今後は私達が持つファンやサポーター、自治体などのステークホルダーをパートナー企業に引き寄せ、繋ぎ、それを拡大していくプラットフォームの役割として機能することを目標としています。看板の掲出などの露出媒体としてのみならず、様々な手法で有効にパートナー企業名の訴求や商品のPR媒体に役立ててもらうなど、より効果的にパートナーの課題解決に貢献できる施策提案を目指すものです。またパートナー企業とクラブがもつ双方の強みで連携し、地域における社会問題の解決に共に取り組むなど、Jリーグクラブとしか実現できないようなシナジー効果を発揮した真のパートナーシップ形成を目指しています。

▶ 事例紹介

CASE 01 パートナー企業様によるスタジアムアクティビティ

ホームゲーム会場を活用したパートナー企業によるPR活動の重要性は年々増えています。試合ピッチ上でのPR活動、コンコースエリアへのパートナー企業による商品販売会、サンプリング提供やアンケートの実施に伴う抽選会の実施など、多様なアイデアによる様々な形態でスタジアムイベントを華やかなものにしていただいています。毎試合一定の入場者数を安定して動員し、クラブへの愛着が強いサポーターやファンが集うこのスタジアムで直接PRできる機会は、パートナー企業の皆様にとっても有効な手段の一つであると高くご評価をいただいています。



CASE 02 パートナー企業様と協同での地域貢献活動

平田機工(株)様と協同で【こども食堂支援プロジェクト】を実施いたしました。

この活動では、ロアッソ熊本のホームゲームでファン・サポーターの皆様にご協力いただき、フードドライブによる食料品提供を呼びかけ、集まった食料品は平田機工(株)様が日頃より支援をされている熊本県こども食堂ネットワーク様を通じて、加盟するこども食堂へお届けしました。後日、支援先の一つである菊陽町の「とりたま食堂」へ平田機工(株)様と選手が訪問し、食料品の贈呈式を実施。贈呈式の後には、こども食堂を利用する地域の子どもたちと選手と一緒に食事する交流会も行いました。

パートナー企業とクラブが連携して地域貢献事業を行うことで、活動内容や地域課題が各メディアを通じて幅広く報道され、支援の輪の拡大につながる。この活動はその良い一例となります。



CASE 03 パートナー企業様との商品開発

熊本地震から5年目の節目を迎える2021年にスタートした「熊本復興応援プロジェクト」。このプロジェクトの一環として、(有)木之内農園様とコラボレーションした「木之内農園×ロアッソ熊本 頑張れ阿蘇! ロアッソくんの苺ジャム」を販売。商品売上の一部を2023年に全線復旧を予定している「南阿蘇鉄道」へ寄付しました。

熊本トヨタ自動車(株)様とは、オリジナルのサッカーボールを作成し、前シーズンのロアッソ熊本公式戦でのゴール数に応じて県内の小学校にボールを贈呈しています。この活動を通して県内の子どもたちがスポーツで健康になることを目的に、2016年より継続して行っています。



CASE 04 パートナー企業様による ロアッソ熊本を活用したアクティビティ

菊池地域農業協同組合（JA菊池）様では、毎年地域管内の対象区域から募集する子どもたちを対象として実施する食育活動「まんまキッズスクール」にて、ロアッソ熊本をご活用いただいています。この「まんまキッズスクール」で行うロアッソ熊本のサッカー教室はレクリエーションとして子どもたちにとっても喜ばれており、後日希望者の中から行うロアッソ熊本のホームゲームを観戦する「観戦ツアー」と併せて大変好評です。

九州産交ランドマーク（株）様には運営する施設 サクラマチクマモトの「サクラマチガーデン屋上」にて、ロアッソ熊本のアウェイゲーム時にパブリックビューイングを3回開催いただきました。ファンやサポーターが集い一緒に応援して楽しめる場を提供することを通して、施設への誘客にロアッソ熊本をご活用いただいています。



CASE 05 パートナー企業様との新しい価値の共創

ロアッソ熊本では、「熊本の未来を担う若い人達が生き生きと働ける地域を創っていくこと」を目指し、(株)マイナビ様と協働し、コロナ禍でも、県内の魅力あふれる企業の皆様と連携しながら、インターンシップを通じて学生のキャリアづくりをサポートしていく「ロアッソ熊本産学連携プロジェクト」を2021年にスタートしました。

2022年もこのプロジェクトを継続しており、その一例として(株)JTB熊本支店様との連携で、「JTB 熊本支店 実践！ロアッソ熊本ホームゲーム観戦ツアーの造成3Days インターンシップ」と称し、学生を対象にホームゲームのツアー企画造成へのチャレンジや、募集チラシの作成体験を実施。これらの活動が熊本の魅力的な企業様と若い人達の接点を生みだし、将来熊本にとどまり仕事をしてくれる方々を創出することにつながればと願っています。

今後も新たな価値の創出や社会課題の解決といった共創価値の創出を、パートナー企業様と共に目指していきます。



CASE 06 ファン・サポーターとの新たな価値創造の可能性

新型コロナウイルス感染症の発生以来、スタジアムでは声を出した応援ができなくなり、応援に制限される期間が長く続きました。その際に、ロアッソ熊本サポーターが考案したのがハリセンを使った応援です。チャンス時などにスタジアム全体から打ち鳴らされるハリセン音は、スタジアムに大きく響き渡り選手たちを力強く後押ししてくれました。

このハリセン作成時に利用されたのが、パートナー企業である高橋酒造(株)様の商品である「白岳」の焼酎パックです。ロアッソ熊本サポーターのこの取り組みは各メディアでも紹介され他クラブでも評判となり、2022年にカタールで開催されたW杯での日本代表応援スタイルにも波及しました。

感染症により応援スタイルに規制が生じ、その中でサポーターが独自の応援スタイルを考案したこと。その事が結果的に「白岳ハリセン」というパートナー企業の商品名を冠したこの名称が、幅広い人々や地域に発信されることにつながったのです。

このように、クラブも予測していなかったような活動でパートナーメリットが生じること、これもまたスポーツチームを応援する魅力の一つかもしれません。



アカデミー

ACADEMY PHILOSOPHY

サッカー選手として、ひとりの人間として、常にポジティブな態度で行動、決断できる「自立した個」を育成する

サッカー選手としての成長を目指し努力することが、人としての成長に繋がり、サッカーを通じて世の中の大切なことを学ぶことができる。

サッカーの普及活動を通じ、地域と連携、協力しながら将来性豊かな人材を育成する

サッカーの持つ楽しさを知ってもらい、熊本のサッカー人口の裾野を広げ、生涯スポーツの普及に努める。

ACADEMY PLAY STYLE

攻守において、主導権を握ってプレーする
常に自分の100%でプレーし、最後まで諦めない(勝利を目指す)
積極的かつ献身的にプレーし、チームのためにハードワークする

個の育成を図っていくために個別育成計画(I D P)をユースからジュニアまでの全選手に対して実施。また、ストレッチ(飛び級) & 統合を積極的に取り入れ、カテゴリー間の連携をより強めて選手育成強化を図っています。

上手く・賢く・タフに
Technical・Clever・Tough

大会実績

ユース ユースA	
「高円宮杯 JFA U-18サッカーリーグ 2022 熊本1部リーグ」	優勝
「2022九州プリンスリーグ 参入決定戦」	プリンスリーグ 2部昇格
「KYFA2022年度 第33回九州クラブユース (U-18) サッカー選手権大会」	第46回日本クラブユース (U-18) サッカー選手権大会 出場権獲得
「第46回日本クラブユース (U-18) サッカー選手権大会」	ベスト32
ユースB	
「高円宮杯 JFA U-18サッカーリーグ 2022 熊本2部リーグ」	Aパート優勝
「2022Jユースリーグ 第29回Jユース選手権大会」	グループK 1位

※新型コロナウイルス感染症により全日程が消化されず、暫定順位で終了

<トップ昇格>	
道脇 豊	2023シーズン トップチーム昇格
<代表・トレセン選出>	
FW 道脇 豊	3月7日～3月13日 静岡県・時之栖 U-16日本代表候補/TOKINOSUMIKA CHALLENGE
	5月2日～5月12日 ルーマニア U-16日本代表/U-16 Six Nations Tournament
	9月26日～10月11日 ヨルダン・アンマン U-16日本代表/AFC U-17 アジアカップ予選



ジュニアユース熊本 <U15A>	
「高円宮杯 JFA U-15サッカーリーグ 2022九州」	優勝
「KYFA堺整形外科杯2022 第37回九州クラブユース (U-15) サッカー選手権」	9位
「2022JCYインターシティトリムカップ (U-15) WEST」	3位
「高円宮杯 JFA 第34回全日本U-15サッカー選手権大会」	全国大会 ベスト16
<U15B>	
「2022JリーグU-14サザンクロス」	2位
<U15C>	
「高円宮杯 JFA U-13サッカーリーグ 2022九州」	6位
「KFA第17回熊本県クラブユースU-13サッカー大会」	準優勝
<代表・トレセン選出>	
U15A FW 神代 慶人	7月29日～8月4日 福島県・Jヴィレッジ U-15日本代表候補/J-VILLAGE CUP U16
	11月18日～11月29日 スペイン U-15日本代表/スペイン遠征
U15B FW 増村 凌久	5月19日～5月22日 大分県・大分スポーツ公園 2022ナショナルトレセンU-14前期/トレーニングキャンプ
	7月1日～7月3日 静岡県・時之栖 2022JFAストライカーキャンプ/トレーニングキャンプ
	11月24日～11月27日 福島県・Jヴィレッジ 2022ナショナルトレセンU-14/トレーニングキャンプ
	12月2日～12月4日 千葉県・JFA夢フィールド 2022JFAストライカーキャンプ/トレーニングキャンプ
U15B DF 森川 雅斗	11月24日～11月27日 福島県・Jヴィレッジ 2022ナショナルトレセンU-14/トレーニングキャンプ
U15C GK 長井 京志郎	4月29日～4月30日 福岡県・福岡フットボールセンター 2022ナショナルトレセンU-13九州/トレーニングキャンプ
	10月7日～10月9日 福島県・Jヴィレッジ 2022ナショナルGKキャンプ/トレーニングキャンプ
	11月24日～11月27日 静岡県・時之栖 2022ナショナルトレセンU-13/トレーニングキャンプ
U15C MF 川内 健	11月24日～11月27日 静岡県・時之栖 2022ナショナルトレセンU-13/トレーニングキャンプ
U15C DF 木山 陸	11月24日～11月27日 静岡県・時之栖 2022ナショナルトレセンU-13/トレーニングキャンプ



ジュニアユース阿蘇 ジュニアユース阿蘇A	
「高円宮杯 JFA U-15サッカーリーグ 2022熊本4部菊池阿蘇B」	優勝
「KFA 第37回熊本県クラブユース サッカー選手権 (U-15) 大会」	ベスト32
「高円宮杯 JFA U-15サッカーリーグ2022 熊本4部チャレンジ大会 ※3部昇格戦」	3部昇格
「KFA 第32回熊本県クラブユースU-14サッカー大会」	グループリーグ 1勝2敗
ジュニアユース阿蘇B	
「高円宮杯 JFA U-15サッカーリーグ 2022 熊本4部菊池阿蘇A」	後期リーグ2位



ジュニアユース人吉 ジュニアユース人吉A	
「高円宮杯 JFA U-15サッカーリーグ 2022 熊本3部B」	優勝・2部昇格
「KFA 第37回熊本県クラブユース サッカー選手権 (U-15) 大会」	4位
「KYFA堺整形外科杯2022第37回九州クラブユース (U-15) サッカー選手権」	大会出場
「KFA 第32回熊本県クラブユースU-14サッカー大会」	グループリーグ4位
ジュニアユース人吉B	
「高円宮杯 JFA U-15サッカーリーグ2022 熊本4部人吉球磨」	優勝
「高円宮杯 JFA U-15サッカーリーグ2022 熊本4部チャレンジ大会 ※3部昇格戦」	チャレンジ大会 出場



ジュニア	
「JA全農杯 全国小学生選抜サッカー IN九州」	ベスト16
「スーパースポーツゼビオカップ KFA第11回熊本県 U-10少年サッカー (8人制)」※2021年度大会延期分	Dパート3位
「スーパースポーツゼビオカップ KFA第12回熊本県 U-10少年サッカー (8人制)」	Bパート優勝
「KFA第48回熊日学童オリンピックサッカー競技大会」	優勝
「JFA 第46回全日本U-12 サッカー選手権大会 熊本県大会」	準優勝
「第21回スポーツハヤカワカップ KFA第44回熊本県 少年サッカー新人大会 (田嶋杯) U-11熊本県大会」	優勝
「KFA第54回熊本県少年サッカー選手権大会 (大谷杯)」	優勝

アカデミーからトップチームへ

ロアッソ熊本では、若年層からの一貫指導によりサッカー技術においても真のプロフェッショナルと呼ばれる選手の育成を実現し、トップチーム及びインターナショナルで活躍できる選手を輩出するためにロアッソ熊本独自の特色あるチームカラーを身に付け県民に愛され親しまれる選手育成を目指しています。

その中で、ロアッソ熊本では、2023シーズンより現在当クラブ ユース所属の道脇豊選手がプロ契約を締結し、トップチームでプレーします。

ユース在籍中の選手とのプロ契約はクラブ史上初となります。

また、アカデミー出身の相澤佑哉選手、宮寄海斗選手が大学進学を経て、ロアッソ熊本トップチームへ加入し、活躍が期待されます。

※2022年12月31日現在



みち わき
道脇 豊

【ポジション】FW

【生年月日】2006年4月5日（16歳）

【身長/体重】186cm／70kg

【出身】熊本県熊本市

【サッカー歴】

太陽SC熊本U-12

ロアッソ熊本ジュニアユース

ロアッソ熊本ユース（※東海大学付属熊本星翔高校1年在学中）

【代表歴】2022年 U-16日本代表（AFC U-17アジアカップ予選）

あい ざわ
相澤 佑哉



【ポジション】DF

【生年月日】
2000年10月17日（22歳）

【身長/体重】178cm／70kg

【出身】熊本県八代市

【サッカー歴】

八代いづみFC

太田郷SC

エスペランサ熊本U-15

ロアッソ熊本ユース

駒澤大学

みや ぎき
宮寄 海斗



【ポジション】DF

【生年月日】
2000年11月29日（22歳）

【身長/体重】183cm／75kg

【出身】熊本県熊本市

【サッカー歴】

エンフレンテ熊本U-12

ソレッソ熊本U-15

ロアッソ熊本ユース

鹿屋体育大学

2023シーズントップチームには、アカデミー出身選手として上記3選手に加え、上村周平選手、谷山湧人選手、計5名が在籍します。

サッカー普及事業

▶ サッカースクール・

キッズキャラバン（幼稚園・保育園巡回指導）・サッカー教室

サッカーを通じて、夢を持つことの大切さ、サッカーの楽しさを伝えていくことを目的として、未来を担う子ども達にサッカーをプレーする機会の創出に取り組んでいます。これらの活動では、ロアッソ熊本やサッカーの魅力を感じてもらうことはもちろん、身体を動かすことを通じてスポーツへの愛着を芽生えさせ、心身ともに健全な発達の促進を目指し、今後も「生涯スポーツの普及」に努めてまいります。

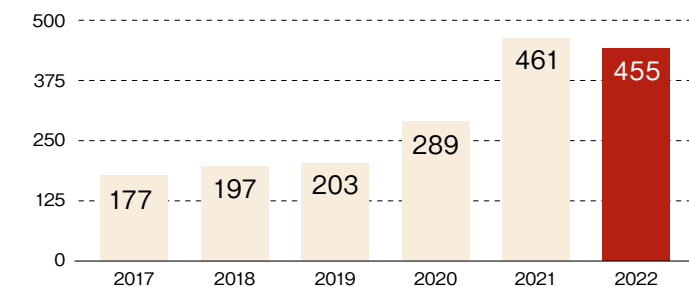
サッカースクール

会員数

455名

（2023年1月現在）

〈ロアッソ熊本サッカースクール人数推移〉



熊本市を中心に多くのコースで、子どもたちが元気いっぱいサッカーに取り組んでいます。スキルの上達や仲間との協力を通して「遊ぶ・学ぶ・創る」というスクールテーマを体感してくれています。「なでしこスクール」、「ゴールキーパースクール」、「大人のサッカー教室」など、特色のあるコースもあり、ロアッソファミリーとしてみんなで楽しく活動を行っています。

サッカー教室

パートナー企業や自治体と連携し開催する県内各地でのサッカー教室に普及コーチやトップチーム選手が参加しています。参加者のサッカー経験の有無を問わず、誰でも楽しめ、思い出に残るサッカー教室を行っています。

キッズキャラバン

普及コーチが県内各地の幼稚園・保育園を訪問して、行うスポーツ指導プログラムです。参加者全員が楽しめるプログラムでサッカーをはじめ、様々な活動を通して、身体を動かすことが大好き、元気でたくましい子どもに育つことを願い活動を行っています。



ホームタウン活動

「ホームタウン」と「ホームタウン活動」とは？

Jリーグでは、Jクラブの本拠地を「ホームタウン」と呼んでいます。「Jリーグ規約」には、Jクラブはホームタウンと定めた地域で、その地域社会と一体となったクラブづくりを行いながら、サッカーの普及、振興に努めなければならないことが記されています。つまり、ホームタウンとは「Jクラブと地域社会が一体となって実現する、スポーツが生活に溶け込み、人々が心身の健康と生活の楽しみを享受することが出来る町」を意味しています。

ロアッソ熊本では、「熊本市」を「ホームタウン」と定めていますが、県内全域を活動区域とし、熊本市以外でも、県民のみなさまに愛されるクラブとなるために、県民のみなさまと心を通わせるための様々な活動を実践しています。



「熊本」の誇りの中に加わる

ロアッソ熊本を「私たちのもの」という所有格でとらえてもらうこと



① 地域との連携

- ▶ 熊本県、熊本市を中心とした県内各行政との連携
 - ・熊本県スポーツ振興等事業「ロアッソ熊本交流会」、交流人口拡大事業
 - ・熊本市人権啓発事業「人権マッチ」開催、熊本市生物多様性戦略
- ▶ パートナー企業、地域団体、NPO法人との連携 (Jリーグ・シャレン！『社会連携活動』※推進)
 - ・平田機工(株)様とのこども食堂支援事業
 - ・熊本トヨタ自動車(株)様との県内小学校へのサッカーボール寄贈事業「1ゴールアシスト5」
 - ・KFA第7回熊本スカンビオカップ(障がい者フットサル大会)参加

※シャレン！(社会連携活動)とは、3者以上の協働者と、共通価値を創る活動を想定しており、社会課題や共通のテーマ(教育、ダイバーシティ、まちづくり、健康、世代間交流など)に、地域の人・企業や団体(営利・非営利問わず)・自治体・学校などとJリーグ・Jクラブが連携して、取り組む活動です。

- ▶ 火の国もりあげタイ！事業(2022版) ※2014年からの継続事業
 - ・荒尾市、湯前町、山江村をパートナータウンとし、住民招待事業、ホームゲームで地域物産品の販売を実施
- ▶ 県内各地でのサッカースクールおよび阿蘇・人吉でのチーム運営
 - ・高森町、人吉地域でのサッカースクールの展開
 - ・高森町、人吉地域でのロアッソカップ(大会運営)の実施

② クラブが行うCSR・SDGsへの取り組み

- ▶ サッカー以外のスポーツによる健康増進事業
 - ・明治安田生命Jリーグウォーキングin熊本
 - ・ロアッソ熊本健康体操
- ▶ 教育分野への貢献
 - ・県内の小中学校での職業講話
 - ・大学生、パートナー企業と連携したホームゲームイベント企画や職業体験
- ▶ 地域課題解決への取り組み
 - ・高森町、人吉地域でのジュニアユースチームの運営。過疎化が進む地域において、高いレベルでのチーム運営を行うことによる人口流出の緩和
- ▶ SDGs、環境課題への取り組み
 - ・熊本市「ワンウェイプラスチック削減・バイオマスプラスチック等利用促進事業」
 - ・環境省九州地方環境事務所「阿蘇くじゅう国立公園草原再生」への取り組み



③ 「くまもとブランド」の発信

- ▶ 公式サイト、公式SNS、スタジアムを活用した発信
 - ・スタジアムでの物産品販売(荒尾市、湯前町、山江村)
 - ・火の国もりあげタイ！プロジェクトによる地域の魅力発信
- ▶ 選手・マスコットを活用したプロモーション施策の提案・協力
 - ・パートナー企業訪問、各自治体イベントへの出演
- ▶ 全国のJリーグクラブとの連携
 - ・岡山、千葉、仙台など対戦チーム会場での観光PR事業
 - ・九州だJ！フェスタへの参加

④ 復興支援事業

- ▶ 熊本地震復興支援事業
 - ・南阿蘇鉄道復旧支援「熊本復興応援プロジェクト」による「ロアッソくんの苺ジャム」販売
- ▶ 杖立温泉豪雨被害復興支援事業
 - ・10月23日(日)横浜FC戦でPRブースの出展と復興支援物産品の販売

⑤ 2022新規事業

- ▶ 「ロアッソ熊本SDGs宣言」
 - ・教育・健康・環境・ジェンダー平等を軸にパートナーの皆様と共にSDGsの達成に向けて取り組んでいく事を宣言



- ▶ 「フードドライブ」
 - ・今シーズン試合会場にて計4回のフードドライブを実施。集まった食品は支援を必要としている団体へ提供
- ▶ 「介護予防運動」
 - ・熊本市と一緒に取り組む高齢者介護予防事業として、J.H.Wellness様と連携した介護予防運動プログラムを実施

2023シーズンの取り組みとして

▶ 熊本市を中心とした各市町村との連携強化

熊本県各市町村の情報発信、啓発活動への協力など

▶ 「裾野の拡大」

ロアッソ熊本と関わる事がなかった人達と接点を作るべく、サッカー以外の活動も積極的に取り組んでいく

▶ 「小学校・中学校を中心とした

教育分野への活動推進」

選手、スタッフによる職業講話をはじめ、それぞれのキャリアを活かした教育活動の実施

▶ 「災害に関する啓発活動と復興支援事業の実施」

いつ起きるか分からない災害に備えるために、啓発と情報発信を実施。また、万が一起きた際の募金活動の継続と復興支援事業の実施

▶ 「ロアッソ熊本SDGsに掲げた目標の実現」

5つのターゲットに向けた活動の推進など

▶ 県内スポーツ団体と連携した

地域貢献事業の実施

県内プロスポーツチームだけではなく、多数の競技種目、アスリートとの連携による社会貢献事業の実施

▶ スタジアム建設について 熊本県民の皆様が幸せになるために。スタジアムを中心としたスポーツ施設の建設

サッカーの魅力をより感じるためには、サッカー専用スタジアムでの観戦が一番です。11月13日にサンガスタジアムbyKYOSERAで開催されたJ1参入プレーオフ決定戦。ピッチレベルで選手同士の熱い戦い、両サポーターによる応援を感じ、「いつかロアッソ熊本もサッカー専用スタジアムで」と思った方も多いと思います。私たちはこれを夢で終わらせるのではなく、実現に向けて動き出さなければなりません。

私たちが目指すのはサッカー・ロアッソ熊本だけではなくそこに住む人たちがスタジアムがある事で幸せになるための施設です。サッ

カーだけでなく、多種目のスポーツイベントを開催、コンサートやライブなどのスポーツ以外のイベント開催などができるスタジアムをつくりたい。

また、今後起こりうる可能性のある災害や有事の際に拠点になれる「スタジアム」「スポーツ施設」でなければなりません。サッカーに捉われることなく、多目的な機能を持ったスタジアムをつくることで地域開発や当該地域の活性化につながると思います。

夢を夢で終わらせないように、そして、熊本県民の皆様が幸せに、豊かになれるようなスタジアムの実現に向けて動き出します。

ROASSO KUMAMOTO 2023 WEAR PARTNER

ユニフォーム サプライヤー



ユニフォーム パートナー



公式トレーニングウェア パートナー



練習用トレーニングウェア パートナー



※2023年1月31日現在

ロアッソ熊本を応援していただいている全ての県民の皆様へ

2022シーズンは、J2リーグ戦を4位で終えてクラブ初のJ1参入プレーオフへと進出、1回戦の大分トリニータ戦、2回戦のモンテディオ山形戦を経てJ1リーグに籍を置く京都サンガと決定戦を闘いました。その結果は惜しくも引き分けとなってしまう、規定により、念願のJ1昇格を果たすことはできませんでした。

ファン・サポーターをはじめ、応援して下さった多くの県民の皆様、ロアッソ熊本に関わるすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

2022シーズンのクラブスローガン「闘え！2022」は前期のクラブスローガン「闘え！」を継承し、2021シーズンJ3リーグ優勝、J2昇格を果たした勢いをそのまま2022シーズンに繋げる思いで掲げました。

2023シーズンは2022シーズン成し得なかった課題をつかみ取る意思を込めて「挑め！高みへ」をクラブスローガンに掲げ、チームもクラブも更なる高みのステージを目指します。

チームは2022シーズン活躍した多くの主力選手が移籍しましたが、実績もあり即戦力となる選手や伸びしろのある若い選手が新たに加入しました。2023シーズンも大木監督のもと、攻撃的で躍動感のあるアクションサッカーを追及し、ファン・サポーターの皆様がワクワクドキドキするような闘いを展開してまいります。

一方、経営面ではJ2リーグに復帰したことによるスポンサー料の増加、J1参入プレーオフ進出による入場料収入の増加もあり黒字化することができ、2年間の連続赤字から脱却、増資も行ったことにより財務状況の一定の安定化が図れました。これを機に経営体制も一新し、組織も含めた改善、改革を図り、様々な要素においてJ1を目指すにふさわしいクラブとなるべく、更なる努力による発展を目指します。

チーム、クラブが一丸となって目標を掴み取ることによって「県民に元気を」「子ども達に夢を」「熊本に活力を」のクラブ理念のもと、パートナー企業、行政の皆様と共に地域に根差した活動を継続かつ拡大し、広く愛され、熊本に必要不可欠な存在となれますよう精進してまいります。

株主様、パートナー企業様、行政の皆様をはじめ、県民の皆様におかれましては、引き続き2023シーズンもロアッソ熊本を応援していただき、より一層のご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社アスリートクラブ熊本

代表取締役社長 永田 求

(株)アスリートクラブ熊本役員名簿

役 職	氏 名	非常勤役員所属社名	役 職
代表取締役社長	永田 求		
専務取締役	藏原 信博		
取締役GM	織田 秀和		
取締役(非常勤)	池永 成正	アデル・カーズ株式会社	代表取締役社長
取締役(非常勤)	坂本 正	ロアッソ熊本持株会	理事長
取締役(非常勤)	田代 桂一	山鹿温泉リハビリテーション病院	理事長
取締役(非常勤)	前川 隆道	一般社団法人熊本県サッカー協会	名誉会長
取締役(非常勤)	高橋 光宏	高橋酒造株式会社	代表取締役社長
取締役(非常勤)	河村 裕二	株式会社熊本県民テレビ	取締役
取締役(非常勤)	藤本 靖博	平田機工株式会社	取締役常務執行役員
監査役	宮田 房之	宮田総合法律事務所	代表(弁護士)
会計参与	西本 寛	西本会計事務所	代表(税理士)

※2023年1月31日現在

【発行】株式会社 アスリートクラブ熊本

設立/平成16年12月21日 資本金/3億8,000万円
所在地/熊本市中央区神水2丁目10-10 tel:096-283-1200

一般社団法人 ロアッソ熊本スポーツクラブ

設立/平成26年4月1日
所在地/熊本市中央区神水2丁目10-10 tel:096-285-3033

